

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成23年5月19日(2011.5.19)

【公表番号】特表2008-540305(P2008-540305A)

【公表日】平成20年11月20日(2008.11.20)

【年通号数】公開・登録公報2008-046

【出願番号】特願2008-509417(P2008-509417)

【国際特許分類】

C 0 4 B 35/10 (2006.01)

C 0 1 G 25/00 (2006.01)

【F I】

C 0 4 B 35/10 E

C 0 1 G 25/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年4月1日(2011.4.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 6】

本発明は、さらに、本発明のスリップを製造するための方法において、

- a) 二酸化ジルコニウム含有量 30～75 質量%を有し、かつ pH 調節添加剤、及び／又は表面－活性添加剤 10 質量%までを任意に含み、かつ粒子が、平均直径 300 nm 未満を有する二酸化ジルコニウム粉末の分散液を、
- b) 連続的に又は分けて、分散条件下で、
- c) 酸化アルミニウム含有量 70～90 質量%を有し、pH 調節添加剤及び／又は表面活性添加剤 10 質量%までを任意に含み、かつ 300 nm より大きい平均粒径を有する酸化アルミニウム粉末の分散液に添加し、その際、
- d) 酸化アルミニウムと二酸化ジルコニウムの量を、二酸化ジルコニウムと酸化アルミニウムの比率が、2：98 から 20：80 であるように選択し、
- e) 酸化アルミニウムと二酸化ジルコニウムとの合計としての固体含有量が、スリップの合計量に対して、50～85 質量%である方法を提供する。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも 1 つの酸化アルミニウム粉末と、少なくとも 1 つの安定化されていない二酸化ジルコニウム粉末とを有するスリップを製造する方法において、

- a) 二酸化ジルコニウム含有量 30～75 質量%を有し、かつ pH 調節添加剤、及び／又は表面－活性添加剤 10 質量%までを任意に含み、かつ粒子が、平均直径 300 nm 未満を有し、かつ室温で正方晶相の比率 20～70 %を有する X 線回折において単斜晶相及び正方晶相だけを示す二酸化ジルコニウム粉末の分散液を、
- b) 連続的に又は分けて、分散条件下で、
- c) 酸化アルミニウム含有量 70～90 質量%を有し、pH 調節添加剤及び／又は表面活

性添加剤 10 質量%までを任意に含み、かつ 300 nm より大きい平均粒径を有する酸化アルミニウム粉末の分散液に添加し、その際、

d) 酸化アルミニウムと二酸化ジルコニウムの量を、二酸化ジルコニウムと酸化アルミニウムの比率が、2:98から20:80であるように選択し、

e) 酸化アルミニウムと二酸化ジルコニウムとの合計としての固体含有量が、スリップの合計量に対して、50～85質量%であることを特徴とする方法。

【請求項2】

前記二酸化ジルコニウム粒子の平均直径が、70～200 nmであることを特徴とする、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記二酸化ジルコニウム粉末が、凝集物の形状で存在することを特徴とする、請求項1又は2に記載の方法。

【請求項4】

前記二酸化ジルコニウム粉末のBET表面積が、 $60 \pm 15 \text{ m}^2/\text{g}$ であることを特徴とする、請求項1から3までのいずれか1項に記載の方法。

【請求項5】

前記酸化ジルコニウム粉末が細孔を含まないことを特徴とする、請求項1から4までのいずれか1項に記載の方法。

【請求項6】

前記酸化アルミニウム粒子の平均直径の上限が、 $20 \mu\text{m}$ であることを特徴とする、請求項1から5までのいずれか1項に記載の方法。

【請求項7】

前記酸化アルミニウム粉末のBET表面積が、 $0.1 \sim 15 \text{ m}^2/\text{g}$ であることを特徴とする、請求項1から6までのいずれか1項に記載の方法。

【請求項8】

液相が、水であることを特徴とする、請求項1から7までのいずれか1項に記載の方法

。